

資料1

為歲言一氣祥

小袖又贈給之

物也一玉名毒細

通舟雅未既今逢

逢

正月百家總

紀傳

大納言殿

為歲暮之佳祥
小袖三重列來
欵入作委書
古屋相摺与可
述小坡之

三月廿一日

尾張
中將殿

為歲暮之佳祥

小袖二衣相贈

飲然下妻出古屋

相携与一述作

評

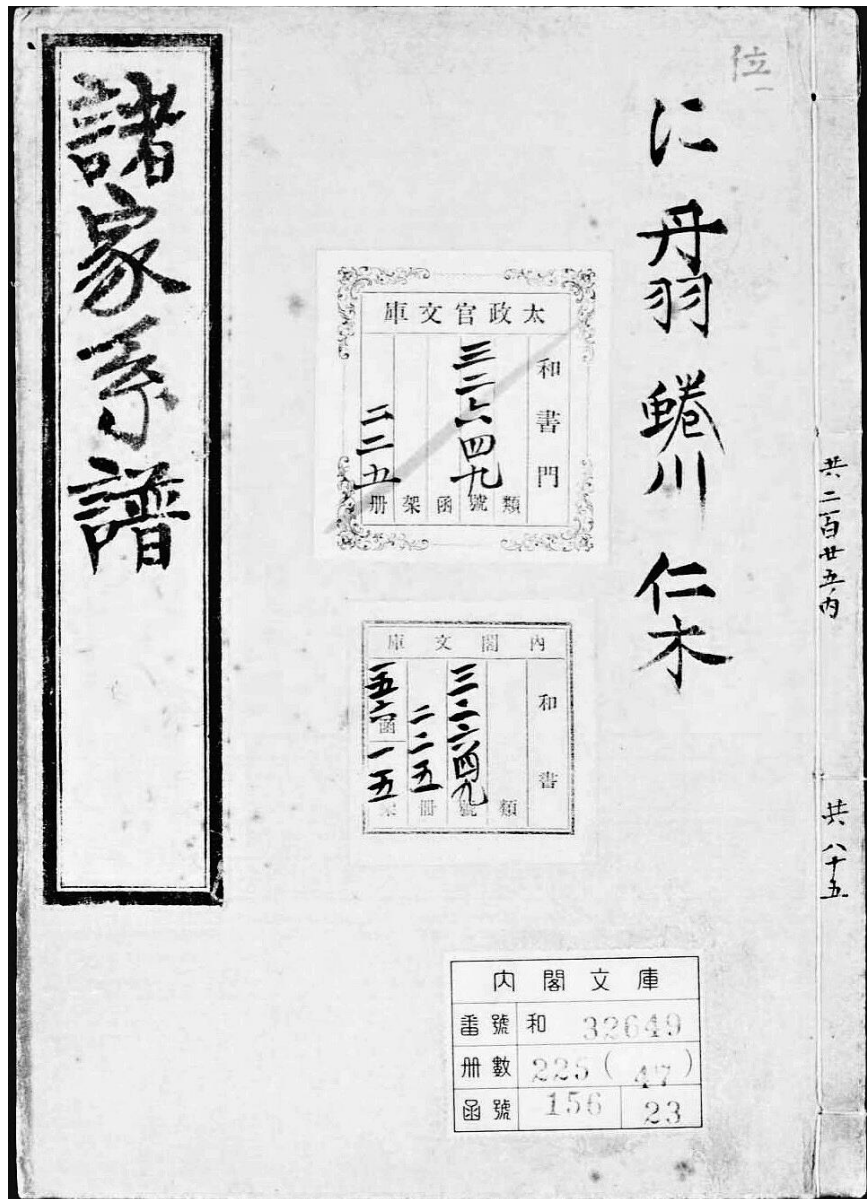
三月廿日繼書

水戸
中納言殿

諸家系譜 第47冊

(国立公文書館所蔵)

- 江戸幕府が大名・旗本の系譜集『寛政重修諸家譜』(1530巻、文化9年<1812>完成)を編纂するにあたって、大名・旗本の各家から提出させた系譜書を書き写したもので、現在は225冊からなる。
- 各家の系譜書では、徳川家康や幕府との結びつきに関わる由緒が強く主張されており、『寛政重修諸家譜』の編纂にあたった若年寄の堀田正敦らは、これらを他の史料と突き合わせて考証・訂正し、「略譜」と呼ばれる中間的な系譜集を作成、さらにこれに修正を加えて『寛政重修諸家譜』の献上本を完成させた。



系譜抄

源氏
四書後
五回
徳川與三節

考類
書札法武并二字札書傳事一決

徳川家通親徳徳久保吉直正三河守兼我

流書札法武二字札書法在書道書傳事

又信守徳川家通親徳徳久保吉直正三河守兼我

右書札法武種彦武家法例二字札書成

室町將軍家法例

神君師範名師愛我又在高橋奉書

上意法例二字札書月書之由中書其

後嫡子交我及書古積書法二字札

一大事本武傳傳事書札法武

枚年所外仕功上二字書之知

我朝皇朝... 子相... 外今有免洋... 人政... 等... 及之刑... 二...

大前... 古...

上... 正元... 正永... 正永相...

天和... 正元... 正永... 正永相...

正元... 正永... 正永相... 正永相...

文章... 正元... 正永相...

竹園の作、自古外祖傳、以爲書中、
二字孔也、傳以絶、二、及、
家

上卷、
中卷、
下卷、
は、
は、

西、
絶、
親、
書、
也、

親英、
札、
親英、
十、
書、

文章、

一、
殺、
一、

神、

一、
選、

御月御前日記の巻の二 親雅書札二文字札
極意に極意に御記に

元文二年八月末 慶山 極意に二文字札御
記に 信守文より 御月御前

富澤宮子 享和二年正月 御月御前 極意に二文字札
二文字札書信御記に 書札伝書の親雅の

婦長 徳川吉五年 親雅の 相付に 御月御前
に

王の二書布 享和二年 極意に二文字札

親雅の二文字札書信御記に 信守高村
御月御前

一 公卿の親雅書札伝書 彦右沙字親雅御相
伝

御月御前 享和二年 御月御前 以今より 御月御前 水也

出向御前 後 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 向井
彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の

彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の
彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の

彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の
彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の

彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の
彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の

彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の
彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の 彦右沙字親雅の

一親應代公代始和抄世傳書の可成は親履

崇子臣丁卯年

桃園院 印印位相并大賞會一

懐信公 御身合為御用寸節

上院公今可成也

右通沙在島上

寛政十一年

巻川與三郎

印